



一般質問要約

1トン燃やす費用は

45025円

灯油が1023リットル買える値段です

吉野川市は、燃えるゴミの焼却を阿波市吉野町にある中央広域環境センターで行っているが、この焼却場はゴミを燃やすのではなく、まず超高温でガス化してから燃やす方式なので1トンあたりの処理費用が45,025円になっている。

今、45000円あれば灯油が1023リットル買えるので、1000キロのゴミを灯油ドラム缶五本で燃やしているのと同じ計算で、異常過ぎるほど高いと言える。

市の担当課の調べによると、全国の多くの自治体で使われている方式の焼却炉（ストーカ炉）なら、燃料費などの消耗品費は四割以下になり、さらに焼却炉の整備費用や、運転委託費用などを計算すると大幅に安くなるのが分かった。

中央広域環境センターは耐用年数20年で、すでに十年を経過しているため、毎年整備費用が高くなり、28年度予算は4億7千4百万円になっており、運転委託料も2億4千9,349千円も支払っている。市が利用している方式の焼却炉は、全国で三つしかなくそのうち、諫早市などの自治体は「あまりにも高すぎる」として焼却炉メーカーを訴えている。一方、全国の自治体の多くが利用している焼却炉（ストーカ炉）は整備費用

も運転費用も少ない。

耐用年数があるうちは、現在の焼却炉を使うのは当然だが、耐用年数が終われば、ただちに処理費用が安い焼却炉に切り替えるべきだが、市の考えは？

答弁要約

焼却炉の方式がガス化改質方式ということで、ゴミを溶かして処理することから、天然ガスを大量に使用するため、燃料費、焼却炉の修理費等に費用がかさみ、トン当たりの処理費用が高くなっているのが実情。

ごみ処理事業については、全国的にも各焼却施設の建て替えの時期を迎え、その地域の状況に応じて、広域処理か、単独か、という難しい判断を求められている。

本市も現在は中央広域環境施設組合において、広域的に処理を行っているが、施設使用期間が残り9年間となっております、その間に、今後のごみ処理施策を検討しなければならぬ。

ごみ処理行政において、将来に負担を残さない、迅速で最適なごみ処理を目指して、平成29年度に「一般廃棄物処理基本計画」の見直しを行うので、その時点において本市のごみ処理の方向性を示したい。

総工費三億二千九百万円

洪水から川岸を守る工事が完成

吉野川の「岩の鼻」付近の川岸を守るために大規模な工事が国土交通省により行われていましたが、この度完成しました。

平成26年の台風による吉野川の洪水で、川岸がえぐられ、そのままでは危険な状態でした。そのため洪水が押し寄せる「岩の鼻」下の川岸に、一つ

6トンの根固ブロック約1,200個を積み上げて、川岸を守ることと同時に、水の流れを変えるために対岸の善入寺の川岸の土砂43000m³を取

り除きました。国土交通省徳島河川事務所の話では、「この工事により川岸が強固になったことと、川の流れが北側に変わったことと、川の流れが北側に変わ

る」とのことですが、今後の洪水の水の流れをみて、追加工事もありうる

ことでした。工事費は値固めブロックの積み上げと、川岸のコンクリートの修繕に1億6300万円。善入寺の川岸の土砂を取り除きの工事に1億6600万円です。